ものづくり 次の100年 切り拓く！

てっこうきでん

TEKKOKIDEN

2023
10

(一社)石川県鉄工機電協会
TEL (076)268-0121
URL https://www.tekkokiden.jp
題字／会長　中村　健一

令和５年度業界振興懇談会（第25回）開催

９月５日㈫金沢東急ホテルにおいて、馳知事及び県商工労働部幹部の方々をお招きし、中村会長はじめ協会の役員、並びに各地域・業種の代表者54名が一堂に会し、業界振興懇談会を開催しました。中村会長、馳知事の挨拶の後、代表２名の方々より業界が直面する課題を知事に説明要望し、それぞれに見解をいただきました。

なお、懇談会に先立ち、日本銀行金沢支店長 吉濱久悦氏を講師にお招きし、ご講演いただきました。

（中村会長あいさつ要旨）

世界経済では、モノの需要が落ち込み、製造業の景気指数では主要国の７割で、企業活動が縮小しております。また、国内経済においては、全国の信用保証協会が行った代位弁済においても、中小企業の経営環境の悪化が進行しております。

こうした中、この５月に馳知事にもご出席いただいた「MEX金沢」の会場である産業展示館の改築につきましては、これまでも本懇談会で要望しておりましたが、「西部緑地公園再整備構想検討委員会」において、年末までに構想をとりまとめられるとお聞きしております。展示規模の拡充や立体駐車場の整備など産業界に力を与える、日本海側随一となる施設を早急に整備していただきたくお願いいたします。

また、私ども業界においては「人材不足」が深刻な問題となっており、今年４月の採用実績が、初めて計画の７割を下回る状況となっております。

業界が抱えているこれら課題について、県行政の力強いご支援をお願い申し上げる次第です。これからも我々モノづくり業界が継続・安定して成長することにより、地元・地域の発展に尽力できますよう、ご配慮賜りますことをお願い申し上げます。

（馳知事あいさつ要旨）

県政推進にあたり、鉄工機電協会の皆さんの日頃の取り組みや県経済をリードしていただいていることに、心から敬意を表したいと思います。

県政は今、３つの課題に取り組んでおります。

１点目は、５月の珠洲の地震や７月のかほく、津幡などの水害の災害対策であり、しっかり復旧・復興に向けて対応していきます。

２点目は、９月議会でお諮りする成長戦略ですが、この成長戦略の肝は、産業の振興戦略であり、皆さんの意見を伺い、来年度の予算編成に向けて取り組みます。

３点目は、来年３月16日に開業が決まりました北陸新幹線の敦賀開業についてで、様々な仕掛けをしております。

これらのことが、県政の大きな流れであります。

そうした中、今日の議題の人手不足は、様々な業界から要望があり、有能な人材をいかに経済界において確保し続けるかが県政の大きな課題だと思っています。

また、産業展示館の改築など、大きな課題を乗り越えていくには、財政的な課題をどう乗り越え、計画的に進めていくのか、５年後、10年後を見渡して、整備に取り組んでいくことを報告させていただきます。

【CONTENTS】

令和５年度業界振興懇談会（第25回）開催
　会長・知事あいさつ要旨……1
　要望内容・講演要旨……2～3
協会トピックス
　中学生モノづくり企業見学会の開催……3
　熟練技能者の派遣について……3
　デザインセミナー（第１回）……4
　自動化・省力化推進研究会（第１回）……4
　広報・情報委員会視察……4
県６月・９月補正予算の支援施策……5
DI調査結果（R5.7-9月期）……6
研修スケジュール……7
協会スケジュール……7
青年部会だより……8
会員企業トピックス……8
会員情報……8
（別紙）延払による機械設備貸与制度のご案内　　J-クレジット制度チラシ

回覧										

会報「てっこうきでん」は協会HPからもご覧になれます。

要望１．新産業展示館の早期実現について

見本市委員長　正田　正一氏（正田産業㈱代表取締役会長）

産業展示館の再整備については、令和元年に、初めて改築要望し、昨年８月に再整備構想検討委員会や検討部会が設置され、今年４月に「西部緑地公園再整備構想骨子案」が示された。

課題の駐車場は、現有台数程度を確保するとの案であるが、工事期間中は更なる混雑が予測されるため、例えば、新たな用地確保や金沢駅からの路線バスルートの増便、大きなイベント時は県で無料シャトルバスの運行を行うなど検討していただきたい。

施設規模は、約４万㎡の整備をお願いしたい。機能的には、展示機能のほか、会議室等の整備など、学会等のコンベンション機能の強化を図ってほしい。

MEX 金沢では、５年前からキャンセル待ちが発生し、展示スペースの増設は喫緊の課題である。PFI 等の導入の必要性は低くなったものと思われることから、一日も早い施設の整備着手と完成をお願いしたい。

また、将来、４号館を建て替える際には、新産業展示館を増築するか隣接地での建て替えが適当であり、一体的に利用できるよう、立体駐車場も含め、20年後を見据えた整備プランにしていただきたい。

＜答弁要旨＞

これまでも大規模なイベント開催時など混雑が見込まれる場合は、主催者側で公共交通機関の利用周知や園外に臨時駐車場、金沢駅からのシャトルバスを用意いただいてきた。工事期間中は、一定程度の駐車場の減少は避けられないものの、これまでの例も参考にして、主催者側とも連携して、どのようなことができるか工夫してまいりたい。提案いただいた、新たな用地の確保までは考えてない。

施設規模の拡大については、４月の再整備構想骨子案では、現在の１号館から３号館までの合計の展示面積よりも拡大することや、大規模なコンベンションにも対応できる大会議室のほか、中小の会議室も整備することとしている。この新産業展示館を含めて、西部緑地公園の再整備には、多額の財政需要が見込まれることから、県財政への影響を十分踏まえながら、整備手法や手順などの検討を深めてまいりたい。

PFI については、従来方式と比べ「民間のノウハウが活かせる」という一方で、「時間がかかりすぎる」などの点があることから、県庁において様々な論点で検討している最中である。

４号館は、平成４年に竣工し、いずれ将来は、建て替えの時期が来ると思うが、当面は、新産業展示館との動線にも十分留意しながら、新産業展示館と一体的に利用できる環境を整えてまいりたい。

要望２．人材の確保施策の充実強化について

人材育成委員長　玉田　善明氏（タマダ㈱代表取締役会長）

会員企業対象の DI 調査において、「企業経営上の悩み」については、令和３年７−９月期から「人材不足」が、２年間連続してトップの悩みとなっている。

県では、昨年度、理系人材の奨学金助成制度を創設し、今年度、新たに企業負担を導入して、助成額の充実を図ったが、参加企業や登録学生は厳しい状況にある。また、市町にも同様の奨学金助成制度があり、手続きの一本化・簡素化や、県と市町の合計額での PR などインパクトのある制度とし、より一層、市町と連携した取り組みを進めていただきたい。更に、奨学金返済中の既卒者も助成対象に広げていただくことを検討していただきたい。

また、地元高等教育機関への新たな支援策として、県内就職者が増加した大学の取り組みに対して、助成金を出すなど充実を図っていただきたい。

少子化の進行と進学率の高まりを踏まえて、工業系高校の卒業生の確保に向け、普通科を含む学科別の募集定員の抜本的な見直し、普通科の募集定員の削減などが必要と思われる。是非、検討していただきたい。

＜答弁要旨＞

奨学金の返還助成制度については、昨年の鉄工機電協会からの要望を踏まえ、今年度から、対象者を、理系の大学院生から学部生等に拡大、対象となる県内企業を、機械・繊維・食品・IT の４業種から全業種へと拡大した。企業の皆様も、積極的な参加をお願いしたい。

市町と連携した取り組みについては、具体的にどのようなことができるか、市町と相談し、検討してまいりたい。既卒者については、県内企業への新卒学生の就職を促すインセンティブとなるよう制度設計し、今年度から始めたものであり、まずは、現行制度の円滑な運用に力を注いでまいりたい。

今年度から新たに、学生の県内定着に意欲的に取り組む県内高等教育機関の取り組みを後押しする制度を設け、最大300万円の助成を行っている。こうした取り組みが県内の大学に広がって、学生の県内定着の大きな後押しとなるよう、引き続き、大学との協定締結、連携に向けて取り組みたい。

工業系高校の募集定員については、少子化が進行する中にあって、高校全体の募集定員は減らしているが、工業系高校については、地元企業への人材輩出という大変重要な役割を担っていることから、平成 17 年度以降、募集定員を維持している。

講演「最近の金融経済情勢」

吉濱　久悦氏（日本銀行金沢支店長）

2023年の世界経済の成長率の見通しは3.0％と、世界経済は減速しているという評価でありましたが、最近になって潮目がかわってきています。

世界経済は、新型コロナによる大きな落ち込みや、半導体・自動車などの供給制限から徐々に回復してきていますが、米欧と日本を比較すると、その状況には大きな違いがみられます。

米国では、約1年でコロナ前のGDPまで回復し、さらなる成長を遂げています。政府の財政支出による現金給付や失業給付の影響を受けて、賃金の上昇やサービス価格の上昇など、連鎖的な上昇が観察されています。一方、日本のGDPは2023年になって、ようやくコロナ前の水準まで戻りつつあります。日本はコストプッシュ型の物価上昇と言われていますが、最近になってじわりとサービス価格の上昇や賃金上昇がみられ、欧米で起こっていたことが日本でも起こりつつあるとの見方が広がっています。このような状況も十分に考慮した上で、金融政策の実施が必要です。

協会トピックス

中学生モノづくり企業見学会の開催

工業系高校への進学を促すことを目的に、中学生とその保護者及び教員を対象としたモノづくり企業見学会・モノづくり体験を開催しました。

○能美市中学生工場見学ツアー

開催日：令和５年７月21日㈮
見学先：㈱タガミ・イーエクス、タケダ機械㈱、㈱東振精機
参加者：中学生42名、教員５名

能美市教育委員会と連携し、能美市中学生工場見学ツアーを開催しました。

午前・午後の２班に分かれ、能美市内のモノづくり企業を見学。参加した生徒からは「工場見学をすることで、地域の企業のすごさを感じることができてすごくよかったです」、「名前も聞いたことがない機械が多かったけど、とてもすごい能力をもった機械ばかりですごいなと思いました」などの感想が寄せられました。

○中学生工場見学・モノづくり体験

開催日：令和５年８月９日㈬
見学先：アサヒ装設㈱
モノづくり体験：石川県立工業高等学校
参加者：中学生12名、教員２名

アサヒ装設㈱では冷凍食品などの食材を作るための食品機械の製造工程を見学させていただきました。また、今回、石川県立工業高等学校にご協力いただき、モノづくり体験（ミニハンマー、コマ）を実施しました。

参加した生徒からは「普段何気なく食べている食品を作る機械があり、工夫されて作られていることを知った」、「溶接体験させてもらい楽しかった」、モノづくり体験では「ごく普通の金属が１つの物になった時のうれしさと楽しさを知ることができた」などの感想が寄せられました。

熟練技能者の派遣について

会員企業に対し、熟練技能者を派遣して実技指導を実施し、技術力向上を図ることを目的に令和元年より実施しています。令和５年度は４月から９月までに４社に対し、機械組立仕上げ、平面研削盤、噴霧塗装、数値制御フライス盤のそれぞれの作業にて実施しました。

実施企業は、「技能検定受験のため」「より高度な技能を習得させるため」との理由で本制度を活用し、「指導を受けた従業員の技能レベルが向上した」との感想をいただきました。

デザインセミナー（第１回）

開催日：令和５年７月14日㈮
参加者：24名
テーマ：新製品開発における「時代のニーズ」のつかみ方
講　師：玉井　美由紀　氏
㈱FEEL GOOD CREATION代表取締役、武蔵野美術大学非常勤講師、グッドデザイン賞審査員、フェーズフリーアワード審査員、元本田技術研究所デザイナー

今回は、時代のニーズをどう捉え、そしてそれをデザインにどう落とし込んでいくかについてお話いただきました。

特に、「“Industry（産業）”という、“産”み出して終わり（In）の時代はこれまで。これからは、“Outdustry”という、製品が使われた後（Out）のことも考慮した製品が求められてくる。そして、最終的には“Dustry”へとサスティナブルなサイクルが繋がる」という話の中での『Outdustry』という言葉が参加者の印象に残ったようでした。また、リサイクル製品のデザインサンプルを実際に手に取る機会もあり、参加者はとても興味深く見入っていました。

自動化・省力化推進研究会（第１回）

開催日：令和５年８月８日㈫
参加者：49名
テーマ：産業ロボットの最新技術と応用事例
～ファナックの協働ロボットCRXのご紹介～
講　師：ファナック㈱　ロボット事業本部
ロボットソフト研究開発本部
技師長　滝澤 克俊　氏

今回は、ロボットメーカーのトップを走る**ファナック㈱の滝澤　克俊氏**に協働ロボットについてお話頂きました。協働ロボットは言語入力の必要がなく、誰でも簡単に扱えるダイレクトティーチングによって動かすことができ、その操作性の高さから今後導入が進んで行くと思われる、とのことでした。

また、今回は実機をお持ちいただき、実際に受講者の方々にダイレクトティーチングを体感いただく絶好の機会となりました。

広報・情報委員会視察

開催日：令和５年９月14日㈭
見学先：㈱竹内製作所（長野県）
参加者：９名

広報・情報委員会としては、今回初めて県外視察を実施いたしました。見学先は長野県の建設機械製造業の㈱竹内製作所です。見学会では**社長の竹内　敏也氏、管理購買部長の渡辺　孝彦氏**から、会社概要のご説明を頂きました。「当社は今年創業60年で、出荷先はほとんどが海外向けで、そのうち60％が北米、40％がヨーロッパである。しかしながら地元長野での操業に拘りがあり、それは港までの出荷コスト削減より優先しており、当社のポリシーである。」とのことでした。

また質疑応答では人手不足については、同様に難しさを感じておられ、「各工場に社宅を備え、県外からの途中入社の人にも対応できるようにしている。また地域の小学生の工場見学を受け入れて交流している。その見学に参加した子供たちが10年後当社の仲間になってくれる日を願っている。」とのことでした。

創業時からずっと地域に根差し、地元に支持され成長して来られた企業であることが伺えました。

令和５年度石川県６月・９月補正予算の支援施策
【主な事業の紹介】

石川県業務改善助成金（業務改善奨励金）

支援対象者　国の「業務改善助成金」を受給した県内中小企業等、県独自の上乗せによる支援

申請受付期間　～令和6年3月10日（日）消印有効

（令和6年2月28日までに国から交付確定・支給決定通知を受けている事業者が対象）

支　援　額　企業の自己負担分の半額を上乗せ補助(最大1，000千円)※

（※事業費8，000千円、国費6，000千円の場合）

補　助　率　最大1/8　(1/20～1/8)

（国）業務改善助成金

事業所内の**最低賃金を一定額以上(+30円以上)引上げ、生産性向上等に資する設備投資等**（機械設備、コンサルティング導入や人材育成等）**を行った事業者に対して費用の一部を補助**

⇒　賃金引上げ額に応じて300千円～6,000千円

（補助率3/4～9/10）

お問い合わせ先：石川県商工労働部労働企画課　TEL　076―225―1531
e-mail　e191300a@pref.ishikawa.lg.jp

賃上げに向けた経営体制強化支援補助金

支援対象者　① 石川県内に事業所を有する中小企業

② 事業所内最低賃金を一定以上引き上げること

補助事業終了時点において、事業所内最低賃金が申請時の地域別最低賃金(933円)より+30円以上であること。なお、申請時の事業所内最低賃金が地域別最低賃金より＋30円以上を達成している場合は、申請時点で支給している事業所内最低賃金より＋30円以上とすること。

申請受付期間　令和5年10月10日（火）～ 10月下旬（予定）

補助額上限額　200万円

補　助　率　1/2以内

補助対象経費　策定した事業計画に基づいて実施する、販路開拓や商品開発等のための取り組みに必要な経費

（販路開拓費、試作開発費、外注委託費、施設・設備の整備費　等）

お問い合わせ先　（公財）石川県産業創出支援機構 成長プロジェクト推進部　076-267-5551
石川県 商工労働部 経営支援課 経営支援グループ　076-225-1525

石川県電気・ガス価格高騰緊急対策支援金

支援対象者　①石川県内の事業所において高圧・特別高圧電力、または工業用LPガスを利用している中小企業。

※高圧電力については、・売上高に対する電気代の割合が3.5%以上であること
・いしかわ環境ISOの登録、または過去3年以内に省エネルギー診断を受診していること

②石川県が実施する以下の事業に係る支援金の支援対象でないこと

・石川県物価高騰対策支援事業（医療機関・福祉施設等）【健康福祉部】
・石川県地域公共交通等運行継続特別支援金【企画振興部】

申請受付期間　令和5年10月10日（火）～ 12月22日（金）

※高圧電力の特例申請　令和5年9月15日（金）～ 10月9日（月・祝）

支援額

電気・ガスの使用量
×
支援単価

契約	申請要件	支援対象期間	支援単価（）内は9月分	特例申請制度
高圧電力	売上高に対する電気代の割合が7%以上 売上高に対する電気代の割合が3.5%以上7%未満	令和5年4～9月分	上限100万円 1.8円/kwh（0.9円/kwh） 上限50万円 0.9円/kwh（0.5円/kwh）	<高圧電力のみ> 申請額が上限額に達した場合は、9月15日（金）から申請いただくことができます。
特別高圧電力	—	令和5年1～9月分	2.0円/kwh（1.0円/kwh）	—
工業用LPガス	—	令和5年1～9月分	12.0円/kwh（6.0円/kwh）	—

お問い合わせ先：石川県電気・ガス価格高騰緊急対策支援金事務センター
076-231-3134（受付時間：午前9時～午後6時　※土日祝除く）

DI調査結果（令和５年７月－９月期）

概況総括：『景況感は下振れ傾向での横ばい状態で、海外経済の動向に注意する必要があり来期については厳しい見通しとなっている』

【調査概要】

1. 今期（令和５年７月-９月期）の業況調査DI12項目では、「受注単価販売価格」など３項目がプラス、「売上高」など９項目がマイナスとなり、８項目が悪化している。

2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの９項目では、

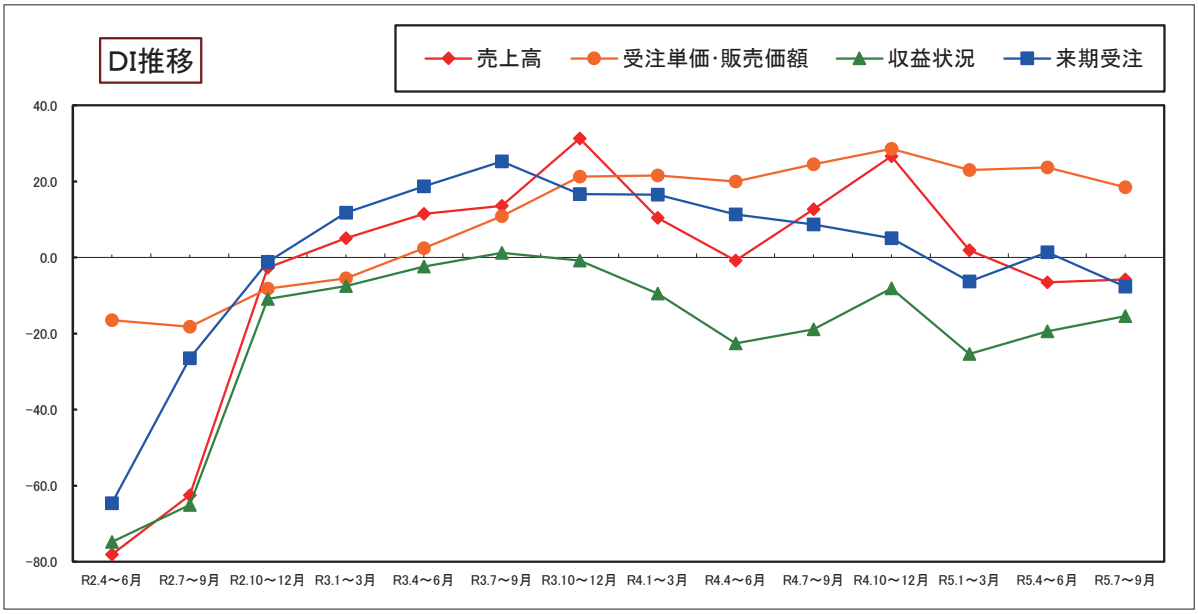
(1) 景況感を端的に表す「売上高」は、▲5.7（前回▲6.5）と引き続きマイナスで推移している。また高騰が続く「原材料価格」が▲42.9（前回▲53.1）と落ち着きを見せつつあるが依然として上昇が続いている。「収益状況」も▲15.4（前回▲19.4）と改善しているものの、価格転嫁が充分に進んでいない状況が窺える。

(2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」▲3.1（前回▲1.8）と引き続きマイナスとなり、「受注残」6.3（前回9.5）、「生産設備」3.6（前回4.9）と、いずれも減少となっており、景況の一服感がみられる。

3. 来期については、「来期受注」▲7.7（前回1.4）とマイナスに転じ、「来期採算」▲8.4（前回▲6.5）「来期資金繰」▲6.3（前回▲2.5）と、３項目ともに減少・悪化となっており、先行きについては厳しい見通しとなっている。

4. 「企業経営上の悩み」については、「人材不足」が35.6（前回34.5）と更にポイントをあげており、更なる自動化や省人化の取組みが急がれる。また、「受注不安定」も29.9（前回28.4）とポイントをあげており、受注の不安感が強くなってきている。

5. 景況感は下振れ傾向での横ばいで推移しており、売上減少や原材料、エネルギー関連価格の高騰で収益状況が逼迫している。長引くロシア・ウクライナ問題とともに、欧米や中国経済の動向に注意する必要があり、先行きが厳しい見通しとなっている。



令和５年度　10月以降の研修スケジュール

※ホームページからもお申込みいただけます。　https://www.tekkokiden.jp

「きでんスクール」

開催日（予定）	テーマ	受講料	定員
10月 5 日㈭～ 6 日㈮	ISO9001内部品質監査員養成講座	15,000	30
10月27日㈮	5Sで仕事のやり方を変えよう！	3,000	30
11月10日㈮	効果的なOJTの進め方	3,000	30
11月24日㈮	組織活性化のための「報・連・相」	3,000	30
12月 8 日㈮	なぜなぜ分析で品質改善	3,000	30
1 月19日㈮	分かりやすい原価管理の基礎	3,000	30
2 月16日㈮	若手社員レベルUP教育	3,000	30
3 月15日㈮	ネクストリーダー研修	3,000	30

「技能継承スクール」

開催日（予定）	テーマ	受講料	定員
10月17日㈫～20日㈮	旋盤加工技術	6,000	12
10月23日㈪～24日㈫	クラウド活用によるIoTシステム構築技術	5,000	10
10月24日㈫～27日㈮	旋盤加工応用技術	6,000	12
11月 7 日㈫～ 8 日㈬	精密測定技術（計測器管理技術編）	4,000	6
11月16日㈭～17日㈮	精密測定技術（歯車・三針法などの特殊測定）	3,000	12

令和５年度　協会スケジュール

開催日	内　容
会　　議	
10月 6 日㈮	人材育成委員会
10月11日㈬	見本市委員会
10月17日㈫	環境委員会
10月24日㈫	総務企画委員会
11月20日㈪	広報・情報委員会
11月21日㈫	新分野進出委員会
1 月25日㈭	令和５年度第２回理事会

行　　事	
10月 4 日㈬～ 6 日㈮	METALEX VIETNAM 2023 出展（ベトナム・ホーチミン）
10月12日㈭～13日㈮	デジタル化推進委員会視察（東京都、神奈川県）
10月17日㈫	環境講演会
10月18日㈬～20日㈮	環境委員会視察（福岡県、長崎県）
10月25日㈬～26日㈭	経営技術指導委員会［先進地域（産地）交流・視察］（京都府）
11月 7 日㈫～ 9 日㈭	SI基礎講座
11月16日㈭～17日㈮	MOT先進地視察（広島県）
11月21日㈫	新分野講演会
11月21日㈫	タイ・AECビジネス促進部会
11月22日㈬	第59回功労者・永年勤続者表彰式
11月22日㈬～25日㈯	METALEX 2023 出展（タイ・バンコク）
11月27日㈪～28日㈫	産業用ロボット特別安全教育研修
11月29日㈬	高校教員（進路指導）工場見学会［能登地区］
12月 1 日㈮	高校教員（進路指導）工場見学会［金沢地区］
12月 4 日㈪	高校教員（進路指導）工場見学会［加賀地区］
12月 6 日㈬	工業系高校教員＆モノづくり企業懇談会
1 月25日㈭	令和６年新年会員懇親会

青年部会だより

次世代経営者人材育成講座＆研修会

開催日：令和５年７月21日㈮
講演テーマ：「能登の地で繊維の未来へ挑戦」
講　師：宮本　徹 氏（丸井織物㈱　代表取締役会長）
参加者：23名

「経営の原理原則」、「人材育成」について宮本氏よりご講演をいただきました。現場へ行くことの大切さ、時代の変化により変わりゆく世代や異なる性格の違いを認めること、評価することの大切さなど、非常に社員を大切にしている様子がうかがえました。

また、ネットビジネスなど繊維事業の枠にこだわることなく、新たなイノベーションを生み出し、様々な事業にも取り組んでおり、1980年代には生産現場にいち早くITを導入するなど、IoTを駆使した工場の見学も行いました。

青年部会員募集

［主旨］

当会は、会員相互の親睦・交流を通じて「モノづくり」ネットワークを構築すると共に、一般社団法人石川県鉄工機電協会の事業に賛助し、県内の機械金属電機関係商工業の振興・発展に貢献することを目的とする、45歳以下の若手経営者グループです。

当会では、所期の目的を達成するために、会員相互の親睦及び情報交換、各種研修事業の開催、協会事業への参加等を通じて、日々自己研鑽に努めています。

［主な活動］

よく遊び、よく学べをモットーに次の事業を実施

・講演会・講習会の開催（産・学・官等から講師を迎える）
・経営・技術の高度化のための先進工場視察　　等

［会員数］

66名（令和５年10月１日現在）

★入会等について、詳しくは事務局（吉澤）まで

会員企業トピックス

◆小池田常任理事が金沢市経済活動賞を受賞

「令和５年度金沢市経済活動賞」に当協会常任理事の**小池田　康秀 氏（㈱北都鉄工代表取締役社長）**が受賞されました。

小池田氏は、クレーン、橋梁、メンテナンス各事業を中心に石川のみならず県外でも事業を展開し、機械・金属産業の振興に貢献されました。

会員情報

令和５年９月15日までにお寄せ頂いた内容を掲載しています。

◆代表者の変更

会社名	新代表者	会社名	新代表者
アイナックス稲本㈱	鏑流馬祐二	㈱小幡製作所	小幡隆信
㈱アクトリー	水越裕介	富士精機㈱	前川　要